



PK戦、7人目にどんぴしゃ GK喜村「読み通り」

○八学野西の守護神、喜村孝太郎は試合を通じて安定したプレーを披露。PK戦では相手のシュートをセーフ、優勝に貢献した。「読み通り。絶対に止めてやろうと思っていた」と胸を張った。

前半に先制し、このまま初優勝かと思われたが、後半18分にロングスローの流れで失点。ただ「ハーフタイムに『耐えてPK戦になれば可能性はある』と話していた。イレブンに集中したプレーを続け、狙い通りPK戦に持ち込んだ。

PK戦で喜村は相手の7人目が蹴った瞬間、迷わず右へ横っ飛び。どんぴしゃのタイミングでボールを止めた。右手を力強く突き上げた。

チームとして初のインターハイに挑む。「まだ準備に不安があるチーム。みんなでもっと練習しろで勝てていきたい」とさらなる成長を誓った。



【決勝・八学野西―青森山田 前半7分、中央のタイミングで先制する。八学野西は阿部晃太

青森山田、25連覇ならず



【決勝・八学野西―青森山田】後半18分、青森山田の月館汰志アプーバクル（左から3人目）が、ロングスローのこぼれ球を押し込み1-1の同点とする

○青森山田はPK戦の末に敗れ、25大会連続の王座獲得を逃した。正木昌宣監督は「立ち上がりでの失点が全てを左右した。選手のプレッシャーとなり、プレーの質の低下を招いてしまった」と敗因を語った。

前半7分に隙を突かれ失点。サイドからの攻撃を中心に度々得点機を演出するも、重圧もあつてか相手守備陣に何度も阻まれた。シュートもバーにはね返されるなど低調が続く。後半18分に月館汰志アプーバクルがベナルティーエリア内から蹴り込んで同点を取った。

正木監督は「勝たせることができず、責任を感じる。先輩が築き上げてきたものを途絶えさせてしまい申し訳ない」と厳しい現状を受け止めた。



PK戦で青森山田の7人目のシュートを止める八学野西の喜村孝太郎